

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考・監察会議（令和6年度第1回）議事要旨

- 1 日 時 令和6年6月13日（木）13:00～14:30
- 2 開催方法 オンライン
※奈良会場を設置
（奈良会場）奈良先端科学技術大学院大学 事務局3階 会議室
- 3 出席者 手代木、浅見、後藤、板東、藤沢、小谷、廣田、安本、別所、種池の各委員
出席監事 西村監事、春本監事
陪席者 元平管理部長、蜂谷企画総務課長
- 4 配付資料
資料1 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
令和6年度学長選考・監察会議委員一覧
資料2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
学長選考・監察会議（令和5年度第4回）議事要旨（案）
資料3-1 学長の再任審査について
資料3-2 学長再任意思確認書
資料3-3 学長候補者抱負
資料3-4 業績調書
資料4 令和6年度における学長選考・監察会議の開催日程について
参考資料1 学長選考基準
参考資料2 学長候補者抱負（令和2年度学長選考時）
参考資料3 学長ビジョン2030
参考資料4 学長の再任審査に関する規定
参考資料5 電子投票システムマニュアル
参考資料6 学長候補者の選考（再任審査）のスケジュール

5 議 事

（1）令和6年度学長選考・監察会議委員について

事務局から、資料1に基づき、学長選考・監察会議委員の紹介を行った。

（2）前回議事要旨の確認について

手代木議長から、資料2の学長選考・監察会議（令和5年度第4回）の議事要旨（案）について、委員による確認が済んでいることの説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(3) 学長の再任審査について

手代木議長から、資料3-1に基づき、学長の再任審査の流れについて説明を行った後、塩崎学長のプレゼンテーション、委員から塩崎学長へのヒアリングを経て、合議により、再任を可とすることを決定した。

【塩崎学長のプレゼンテーション】

学長から委員へ、提出された学長候補者抱負及び業績調書に基づくプレゼンテーションが行われた。

【塩崎学長に対するヒアリング】

上記のプレゼンテーションを受けて、委員から塩崎学長へヒアリングを行った。主な質疑応答は次のとおりである。

○：学外委員 ◎：学内委員 ●塩崎学長

○コロナ禍を経て、リモート会議が常態化することで、奈良先端大の地理的なハンデがかなり克服されたように思うが、「学長ビジョン2030」を策定した当初は社会のリモート化がこれほど進展することまで予想はしていなかったと推察する。大学経営において、こういった環境を今後どのように活かしていくつもりか。

●本学では会議だけではなく、例えば入試の面接試験をオンライン化することでコストダウン及び学生側の負担減を図ると同時に、地理的な弱みの克服を実現している。ほかにも、社会人あるいは企業に向けたセミナー等のオンライン開催も日常化しており、「学長ビジョン2030」策定当初の予想を上回る状況となっている。リモート化については国際社会において本学に注目を集める手段として、更に推進していこうと考えている。また、そのような取組を行うに当たって、事務職員の英語力の向上は一層重要になると考えている。

○深層学習分野における技術の進歩によって言語の障壁が無くなりつつあり、例えば、AIの活用により英文作成や翻訳が可能となるが、これらの技術をどのように活用していきたいと考えているか。

●本学では事務職員の負担を減らすAI技術の活用は既に始まっており、事務局でも自主的に取り組んでいる。一定の予算を投じることも含めて、事務処理におけるAI活用の高度化を今後も進めていきたい。また、研究科において本学独自の情報を取り込ませるAIを活用することで事務作業の簡略化を試みるプロジェクトが始動しており、今後の展開に期待している。

○奈良先端大で研究を担う教員に関する抱負を伺いたい。

●本学は、若手教員の割合が他大学と比較して高いことが特徴であり、実績を上げている若手の助教をより上位のポジションに昇任させる仕組みを提案するなど、若手教員に対する支援の工夫が研究科で行われている。准教授が研究資金を獲得して自らの研究テ

ーマに取り組み、かつ、学生を直接指導する役割を担うなど、教授の補佐的な立場ではない独立した教員として活躍してもらうことが、若手助教にも准教授を目指してもらう上で非常に重要と考え、支援のひとつとしてそのような改革を行った。

○研究を支える職員へのエンゲージメントをどのように向上させていくか。また、これまでエンゲージメントを高めるためどのような工夫をしてきたか。

●学長就任以後、職員のエンゲージメントを向上させることを目的として、教員だけでなく職員も交えて学内及び大学を取り巻く環境について議論する「学長ラウンドテーブル」を実施しており、自身の職務が大学全体の運営にどのように作用しているかなどについて考える機会を設ける取組を続けている。また、若手職員の有志を募って本学の強みや現状を分析し、社会へアピールすべき事柄を議論しながら本学の「アニュアル・レポート」を作成するという新たな取組が始動している。

○奈良県にある国立大学として、どのような地域貢献をしながら、地域及び大学の価値を上げていこうと考えているか。

●現在、令和3年度に創設した地域共創推進室が本学の地域貢献における中心的な役割を担っており、参画するKSAC（関西スタートアップアカデミア・コアリション）と連携した活動等を通じて大きな成果を上げている。また、知事から本学が奈良県内における重要なリソースだと考えている旨の発言も各所でみられ、これを踏まえて県に対して種々の支援依頼を行っている。加えて、奈良県立医科大学との連携においては、県内の過疎地域における医療活動に先端科学技術を用いるなどのテーマが議論されており、ここから新しいプロジェクトに繋がることを期待している。

○若手教員の育成環境が充実していることが奈良先端大の特徴の一つであると考えているが、若手教員を対象とした研究時間の確保等を含めた体制の強化及び環境の整備については今後どのように進めていくのか。

●本学は学部がないため入試業務が少ないことなど、研究時間の確保という点においては他大学と比較して既に良い環境にあるといえる。また、本学には若手教員になるべく負担をかけないという伝統的な組織風土があり、例えば学生募集説明会等の用務はなるべく教授が行い、若手教員は研究に集中してもらうという取組がなされている。もちろん、PI（Principal Investigator）という形で准教授へ昇任した場合は、学生の指導、研究費の獲得等で研究の時間は減ってしまうことになるが、一方で、一人前の研究者となる上で必要なスキルを身に付ける機会にもなるので、そのような機会を若手研究者になるべく与え、活躍してもらえそうな環境はある程度整備が可能であると考えている。

○国立大学の財政面の課題は外部資金の獲得だけでなく、授業料の問題等に多面化してきているが、それらに対する学長の所感と今後の抱負を伺いたい。

●国立大学の財政については、国立大学協会が先日発出した緊急声明の作成に関わった身としても、非常に深刻な問題として捉えている。本学がこれまで実施してきた収入の増加及び支出の減少等の財務改善策は一定の成果を上げており、これらの努力は今後も

続けていくが、その上で、大学運営における資金の活用や本学の財政に関する現状について広く構成員に理解してもらうため、一層努力を続けていくことが重要だと考えている。また、政府予算の国立大学に対する配分が運営費交付金から競争的資金にシフトしている傾向を踏まえ、大学として競争的資金の獲得についてはこれまで以上に努力をする必要があると考えている。

○入学志願者の確保は大学院大学が持つ恒常的な課題であり、奈良先端大では他大学との協定等により多様な学生の確保に努めているが、入学後の学びや成長に関する統計データの取得及び分析を行うなど、アドミッション・ポリシーに合致した学生が確保できているかどうかの検証が必要だと考える。

●本学のアドミッション・ポリシーにおいて最も重要視しているのは、これまで学んできた分野に関わらず、先端科学技術分野に興味がある学生を受け入れることである。今後も、多様な大学との推薦入学制度を設けるなど、様々なバックグラウンドを持つ学生に本学へ興味を持ってもらい、入学してもらうための取組を続けていく必要がある。教育の成果について、単一の指標を用いるなどでの数値化は難しいが、本学はディプロマ・ポリシーを設けており、本ポリシーに基づく修士・博士の学位審査が教育の質的保証として中心的な役割を果たしていると考えている。また、就職の面においても学生それぞれが多様な進路を選択しているといえる状況であることから、本学が目指す人材育成は非常に良い形で進んでいると感じている。ただし、本学は先端科学技術分野を専門としていることから、その教育内容については継続した検討及び更新を行っていくことが肝要であり、また、本学の取組あるいは本学が輩出する人材の社会的な需要について常に観測及び分析を行う必要もあると考えている。

○高度人材の育成という課題において、女性の理工系人材の戦略的育成に対する方策を持っているか。

●女性の高度人材に対する社会の需要は高まっており、本学の女性の修了生に就職して欲しいという企業も出てきている。その中で、推薦入学制度により、さまざまな分野で学んできた女子学生に本学への進路を提供しているが、バックグラウンドが多様である分、入学者全てが先端科学技術の基礎知識を十分に備えているわけではないため、本学では導入教育のカリキュラムを強化することで徹底した基礎の養成を行っている。女性に限ったことではないが、基礎を学ばなければ良い学位論文研究はできないため、異分野から本学へ進学した学生に対して充実した導入教育を施すことが一番重要な育成戦略になると考える。

○高度専門リーダー人材育成の観点から、文理融合や総合知の育成といったリベラルアーツ教育に関する取組は行っているか。あるいはどのような構想を持っているか。

●本学の特徴であり強みは先端科学技術に特化していることだが、一方で、重大な社会課題を解決していく上では当該分野の研究だけでは不十分であるという認識も教員の中で高まっている。その中でいかに人文社会科学的な知見を先端科学技術に取り入れていくかが問われる時代になってきており、本学では1つの取組として、デジタルグリーン

イノベーションセンターにおいて国際基督教大学と連携して社会科学系科目を開講している。今後もリベラルアーツ教育を、先端科学技術の社会への実装において必要な視点を含め、国際基督教大学や国際教養大学といった特色ある大学との連携によって深めていきたい。同時に、リベラルアーツ教育の素地がある学生を本学に受け入れ、先端科学技術の知識を積み上げてもらうことで、新しいタイプの高度専門リーダー人材育成ができるのではないかと考えている。

○教員個人の裁量が確保されている組織においては、例えば授業の代行を頼む相手がいないことで若手教員が留学しづらくなるなどの問題が発生しやすいと感じているが、それについてどのように考えているか。

●本学は大学院大学という特性上、授業科目が少ないため授業関係の負担が少なく、また、基本的に授業は教授が行うという形を取っている場合が多い。学生指導についても特性上、ある程度他の教員に頼むことが容易であり、また、オンラインでの指導を行うこともできるため、海外留学に対するハードルは比較的低いといえる。現在、若手教員の留学が妨げられている原因としては経済的な要素が強いため、今後は補助金等の資金を獲得し、海外経験の機会を増やしていきたい。また、そもそも留学したいと考える若手教員が減少気味であることから、そのような教員に対して留学志向を高める働きかけもしていかなければならないと考えている。

【再任可否の審議】

上記のヒアリング終了後、塩崎学長の再任の可否について審議を行った。

○奈良先端大の長所と短所を非常によく理解し、マネジメントに活かしていることに感心した。

○人材育成、社会連携、研究推進等の課題に対する方策を精力的に進めており、質疑応答にも内部事情も踏まえて丁寧に説明していた。何より、学長という職務に対しての意欲と覚悟を感じるため、更に奈良先端大の強みと特色を伸長していくことを期待している。

○多様な教職員の参加・共創ということを重視した運営を行っており、また、学外においてもこれまで想定されなかった多様なパートナーとの連携を積極的に広げ、それらの新しい取組の芽が出つつあると感じる。教育・研究においても熱心に環境整備に取り組み、かつ、財政面の問題に対しても学長の働きかけに呼応して学内の様々な構成員が参加し、改善の取組を進めていることから、学長の積極性が学内で上手く作用していると感じる。

○研究、教育、リクルーティング、経営のほか、地域に対する貢献においても、非常に高い実績を上げており、かつ、今後の方向性から鑑みるに学長として取り組む余地が大いにあると考える。また、様々な取組が非常に未来志向であることから、奈良先端大における事例が他の国立大学の手本となる可能性があると感じている。

◎学長候補者抱負、業績調書及びプレゼンテーションを通して、学長としての責務はもちろんのこと、国立大学協会の活動においても国立大学の発展に向けて精力的に尽力していると感じた。奈良先端大の学長としてだけでなく、国立大学全体のリーダーとしての今後の活躍にも期待している。

◎女子大を含む多くの大学と連携し、協定を結ぶなどの活動を通じて学長ビジョンに掲げる「共創」の実現を図っており、奈良先端大が非常に開かれた大学になってきていると感じる。また、一つ一つの事柄に対して丁寧に取り組む姿勢を評価しており、このまま学長を続けてもらいたい。

◎奈良先端大の運営に関して、独断専行ではなく構成員に考える機会を提供しながら進めていく“Shared Leadership”を実践している。こういった取組は、現学長の任期中のみにとどまらず、将来において学長が交代した後にも成果をもたらすものであり、素晴らしいと感じる。

◎任期3年を経ても変える必要がなく、更に発展させることができるビジョンを学長就任当初に掲げられたことは非常に素晴らしい。また、本会議でのプレゼンテーションだけでなく、日頃も学内で様々なことに対して丁寧に対応している姿が印象的であるため、これからも奈良先端大の更なる発展に貢献してほしい。

(4) 令和6年度学長選考・監察会議の開催日程について

手代木議長から、資料4に基づき、令和6年度学長選考・監察会議の開催日程及び審議事項等について説明を行った。

以上